

1 本園の教育目標

たくましく自立できる子どもに育てよう

- ・心身ともにいきいきした子
- ・意欲的に遊べる子
- ・心ゆたかな子
- ・個性を認めあい、たすけあえる子

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

努力目標

あんしん いきいき うれしい えがおで おもいつたえあおう
 ~一人ひとりが自分の思いを表現できるような環境構成について考える~

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
努力目標について	A	安心して園生活を過ごすことが一番の目標であるため、一人ひとりの子供の姿の把握や保護者の思いを丁寧に聞き取り、職員間の連携を図りながらより良い方法を考え対応を行った。
職員の資質向上を図る ・職員の連携を図り、保育内容を共通認識し、実践する	B	子供の姿を様々な視点から捉え、保育の流れや内容を職員間で確認を密にし、保育内容を吟味した。研修や研究保育を重ねることで資質向上を行った。
特別支援教育の充実を図る ・子供の姿を丁寧に捉える・保護者への対応・関係機関との連携	B	一人ひとりの子供の育ちについて丁寧に捉え、課題や支援方法を探り、環境構成や援助を再構成して保育を行った。又、関係機関との連携を密に行った。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	子供の姿を中心に据えながら保育を行うために、職員間の連携や共感を大切に進めてきた。コロナ禍以前の保育を吟味し実践するとともに、様々なアプローチの方法を学んだ。一人ひとりの子供の思いに寄り添い、援助や環境構成を考え、チームで取り組むことができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
異年齢のかかわりを通しての保育	・年間計画を立て、4・5歳児の交流から始める。 ・岸一小との連携を積極的に行い、計画を立てる。 ・ことぶき保育園との連携を行い、子供だけではなく職員の交流も含め回数を増やす。
保育内容の精査と充実	担任の持ち味を大切に、いろいろな保育内容やアプローチの仕方を交流し保育内容を充実させると共に職員の資質向上につなげる。

◎3.4. の評価結果の表示方法

A十分達成されている B達成されている C取り組まれているが成果は十分でない D取組が不十分である